

NTT東日本グループの データセンタ運用について

1. NTT東日本データセンターの基本スペック

NTT東日本のデータセンター（以下、DC）は、DCとしての基本スペックとして高い信頼性を有しており、電気通信事業者様を含む多様な属性のお客様にご利用いただいています。

[NTT東日本DCの基本スペック]

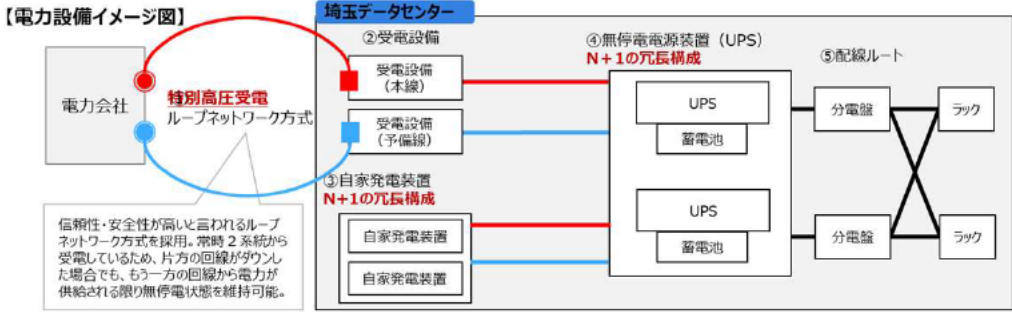
- 立地：ハザードマップ上で低災害リスク
- 建物構造：免振/制振/耐震構造など強靱な建物構造
- 物理セキュリティ：セキュリティゲートによる共連れ防止や静脈認証、監視カメラなどを配備
- 電力設備：本線/予備線方式やループ受電など受電の冗長化、エンジンやUPSの冗長構成

構成員様限り

電力スペックの例（弊社提案書抜粋）

安定した電源を供給するため、電力会社からお客様ラックまでの電力設備の冗長化を実施しています。

- ①変電所からの受電**
 - ・特別高圧にて受電
 - ・ループネットワーク方式で常時2系統にて受電
- ②受電設備**
 - ・本線と予備線で独立した設備
 - ・防火区画の分かれた部屋に設置し物理的に隔離
- ③自家発電装置**
 - ・N+1の冗長構成（ガスタービン方式）
 - ・燃料保持時間は、無給油で20時間運転可能
- ④無停電電源装置（UPS）**
 - ・N+1の冗長構成
 - ・メンテナンス時等にも給電を継続可能
- ⑤配線ルート**
 - ・受電設備からラックまで全ての配線ルートを二重化



2. ハウジング契約の過程で必要となる情報

❑ 弊社からお客様へご提案する際はDCの利用用途（電気通信サービスでの利用など）を確認はしておらず、お客様にご指定いただいた仕様に基づき構築を行う運用になっております。

[提案時に必要なお客様へのヒアリング項目]

目的	項目	内容
DC選定	DCスペック	ビル構造、常駐体制
	認証	ISMSやTier基準など
	ロケーション	エリア、アクセス条件等
設備要件	電源仕様	電圧、MCCB容量
	系統数	二次側配線の系統数
	契約電力	定格電力の積み上げ値
	ラック数	契約ラック数
	冗長有無	異分電盤冗長等

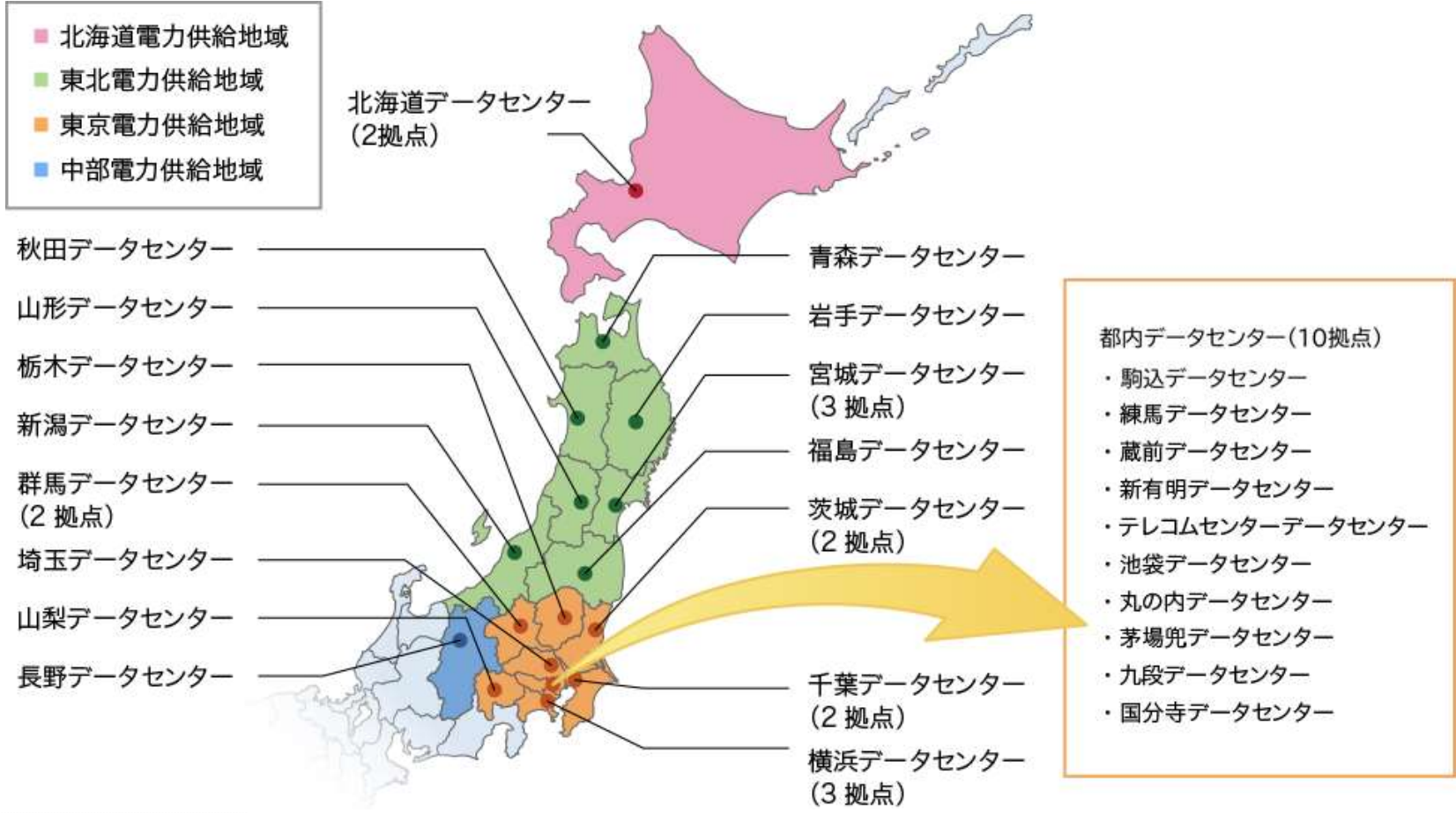
[契約・提供時に必要な情報（保守手引書）]

項目	内容
ラック番号	
保守内容	基本マネージド、マネージドオプション
お客様窓口	連絡先
NTT東 営業窓口	連絡先
NTT東 SE窓口	連絡先
ラック搭載図など	ランプ点検などオプションを契約がある場合

* 上記以外に個別要件がある場合は、別途要件を受領し提案を行う

3. NTT東日本データセンターの展開状況

□ NTT東日本営業エリアの17都道県において、各都道県最低1か所以上、トータル34のDCを運用しております。



4. 平時・有事におけるお客様への連絡について

□ DCに係るお客様への情報通知について、平時の保守等点検の事前連絡、有事の24時間365日の連絡を行っております。

[平時（定期点検・保守等）]

- ビル全館停電やエレベーター停止等の情報は事前にWebページでの掲載や現地での掲示等を行っております。
- DC内機器作業のうち、現用設備に機器の制御や電源に対して物理的・論理的に接触するもの（UPSの保守点検など）について、ご希望のお客様へ事前連絡を行っております。

[有事（故障発生等）]

- 故障が発生した際、事実を把握し当該故障個所とお客様のご利用状況が紐づいたタイミングで、故障機器や対応状況について該当のお客様へ電話やメールにてご連絡いたします。（24時間365日体制）
また故障復旧後にもお客様へ再度ご連絡を行います。
- なお事前にご要望いただいているお客様向けに対して、DCで何らかのアラームが発生している段階 = 当該お客様には影響が無い可能性がある段階においてもご連絡する運用としております。

参考.有事の際の連絡フロー



5. 故障発生時のお客様への事象説明および再発防止に向けた取り組み

- ❑ DCで故障が発生しお客様ご利用サービスに影響を生じさせてしまった場合は、当該お客様と、ご希望に合わせ関連する方々へ事象のご説明を丁寧に行うよう努めております。
- ❑ また徹底的な原因究明を行うことで、故障を発生させたDCはもちろんのこと、弊社が運営する他のDCでも同様の事象が発生しえないかを点検するとともに、再発防止策を検討・実施いたします。

[お客様へご説明している主な項目]

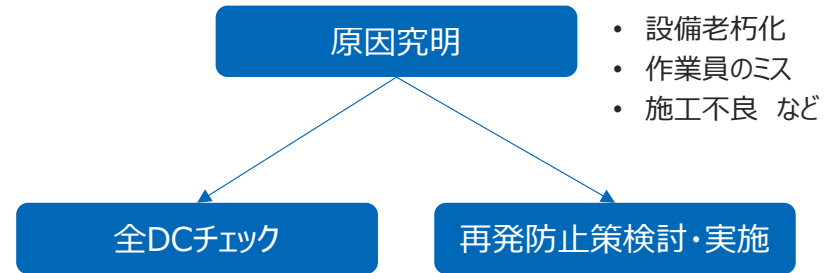
- 発生日時
 - 発生DC
 - 影響範囲
 - 時系列
 - 発生原因
 - 現在の状態（復旧見込み）
 - 再発防止策
- * 発生後、判明しているものから順次ご説明



お客様のお求めに応じ、エンドユーザ様への説明同行や、関係者へのご説明（電気通信事業者様の総務省への報告等）にも対応

[再発防止に向けた取り組み]

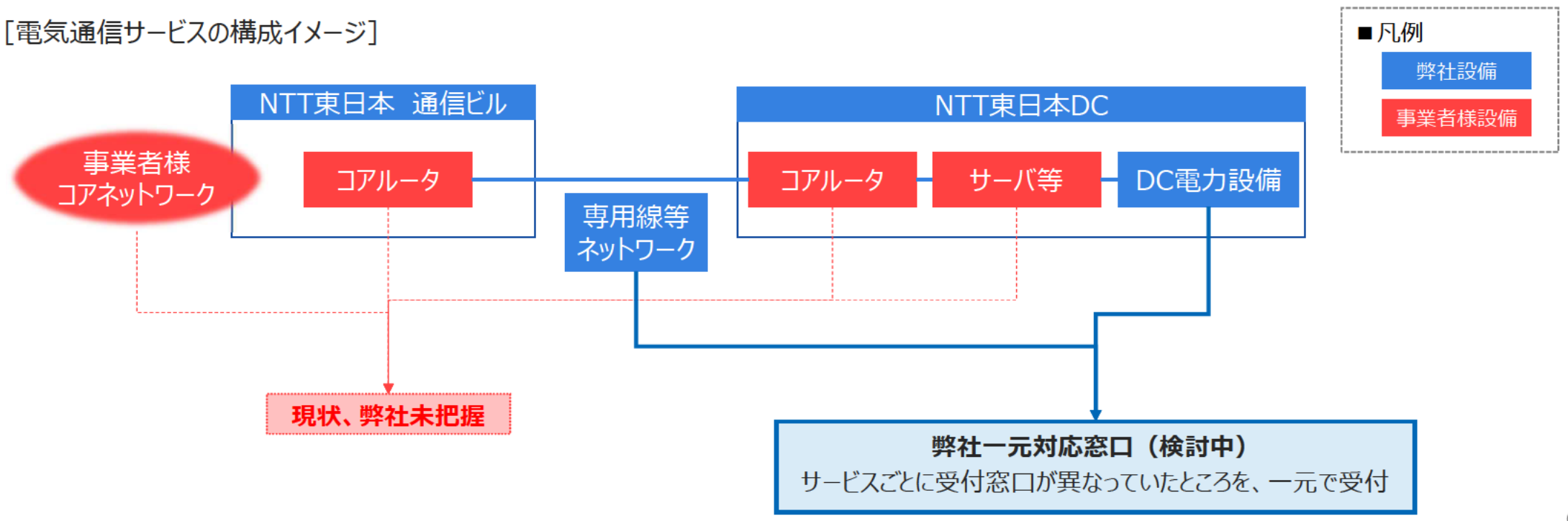
DC保守を委託している会社とともに、原因の徹底究明を行い、故障を発生させたDCのみならず全DCを対象に、同様の事象が起きないか点検します。加えて発生原因に応じた再現性の高い再発防止策を講じ実践します。



6. DC事業者として電気通信サービス保守に貢献できること

- 電気通信サービスに関わる弊社設備・サービスは、データセンタのみに留まらず、専用線等のネットワークなども対象になると想定されます。
- 従来はサービスごとに窓口が異なっておりましたが、弊社サービスに係る問い合わせを一元的に受け付ける窓口機能を検討中です。
- 一方で、現状では電気通信事業者様の利用用途やDCに設置される機器構成は弊社では把握できないため、今後、電気通信サービス保守の精度をDC事業者側で高めていく場合は、双方の情報連携の粒度を細かくしていく必要があるのではと考えます。

[電気通信サービスの構成イメージ]



7. コンテナ型DC事業の展開

- コンテナ型DCは、従来のビル型に比べて短納期で構築できるため早期の提供が可能であり、新たな技術の導入が容易であるなど、お客さまの要件に応じて柔軟に設計が可能です。
- 事業の第一弾として、北海道石狩市にある約5万㎡の広大な土地に、最大で14基のコンテナ型DC建設を予定しています。
- 今後全国の需要のあるエリアへ事業を展開予定であり、電気通信事業者様を始め、様々なお客様へご利用いただきたいと思います。



[主なサービス仕様 (コンテナ型DC1基あたり)]

受電容量	2MW
ITロード	約1.4MW
ラック数	最大40ラック
ラックあたり電力量	30kVA以上
UPS	N+1構成
非常用発電機	N構成
ネットワーク	マルチキャリア対応
冷却方式	InRow + DLC

[コンテナ型とビル型のスケジュール比較]



※当社調べ

